

調布市社会福祉事業団では

能登半島地震・被災地への人的支援を継続的に実施しています

被災地支援
レポート

2024年2月中旬から2週間、石川県輪島市の(社福)佛子園のグループホームで支援に入りました。1月に金沢市の1.5次避難所での夜勤も経験しましたが、被災地の建物倒壊や道路陥没の状況はさまざま、大規模災害の恐ろしさを物語っていました。

私が到着した2日前にやっとグループホームのライフラインが整い、利用者が避難所から戻ってきたところでしたが、職員は遠方に避難したり仕事に復帰できない人が多く、人員不足は深刻でした。私自身も日勤からそのまま宿直に入ったり、世話人業務に追われることもありましたが、1か月半を支援物資で過ごした利用者が温かい食事に大変喜んだり、職員が避難所生活や今後への不安を吐き出して「地震後、初めて自分の思いを話せた」と言われた時、気持ちに寄り添うことの意義を実感しまし



た。被災地では依頼されることが予想と違っても、それが「いま必要な支援」なのだと思います。被災地支援は、街の復興や人々の生活が安心できるものになるまで、長期に必要になります。また、我々も受援(援助を受ける)側になる可能性があるのです。事業団職員の支援が、一本の糸のようにつながっていくことを期待しています。(なごみ施設長 今宮麗子)

調布市社会福祉事業団では2023年度に5名の職員を1週間から2週間の期間で被災地へ人的支援を行いました。2024年度も引き続き支援を継続してまいります。

なんでも相談窓口

調布市社会福祉法人地域公益活動連絡会の一員として「なんでも相談窓口」を実施しています。市内の福祉を連携した取り組みですが、相談件数はまだ少なく、次年度は広報活動に力を入れてお知らせしていきたいと思っています。



2023 調布市社会福祉事業団

公益的 取組み

年間報告

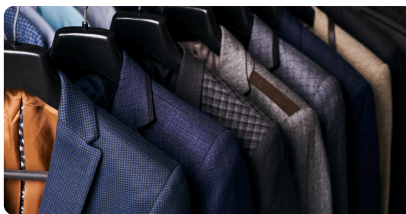
焼き菓子の寄付

当法人では多くの実習生の受入れを行っています。実習謝礼の一部を使用し、当法人のパン工房すまいるの商品を福祉施設に寄付しています。今年度は青少年の居場所「キートス」に焼き菓子40セット提供させていただきました。ひな祭りの会、成人を祝う会のプレゼントとしてみなさんにお渡しいただきました。



リサイクルスーツ

障がいをお持ちの方々に向けてスーツ貸し出しを行っています。職員から提供されたスーツを整理・保管し必要な時に貸し出しをしています。今年度は就活でのご利用があり、無事就職されました！就職活動だけでなく葬儀の際の喪服のお問い合わせがあるなど、活動の範囲が広がっています。



すまいるパン工房で パン作り体験

8月に調布市立第一小学校の特別支援級のお子さんご家族を対象に、すまいるパン工房でパン教室を開催しました。当日は8組14名の参加がありました。自分たちで作ったパンを嬉しそうに持ち帰る姿が印象的でした。

フードドライブ

フードドライブの取り組みを今年度は計3回実施しました。参加方法も、当初職員だけへの呼びかけだったものが、ご利用者・ご家族にまで広がり、そのすそ野は確実に広がっています。寄付していただいた食材は地域の子ども食堂や青少年の居場所事業等の社会福祉施設等で有効に使われています。



両立支援プロジェクトとコラボ“絵本リサイクル”

当法人では両立支援プロジェクトが活発に活動しています。法人職員が家庭に眠っていた絵本を持ち寄り、調布市子ども家庭支援センターすこやかなクリスマス会で地域の子ども達にプレゼントしました。募集した絵本は200冊以上集まり、就労支援中の利用者の方に丁寧に消毒していただきお子さん達にお渡ししました。



調布市社会福祉事業団 公益的取組みプロジェクト

調布市社会福祉事業団は障がい者支援、子育て支援、学齢期の子どもの居場所事業を中心に調布市内で事業展開している法人です。当法人では各市施設で公益性の高い事業多く運営していますが、法人全体として社会的課題に対する取り組みについて職員がアイデアを出し合い取り組んでいます。昨年は絵本リサイクルを新規に始め、被災地支援も法人として力を入れて関わっていくことになりました。